

ピースフェア 2025 を終えて

2014年に第1回目のピースフェアを開いて、コロナ禍で会場開催からオンラインに切り替えた「2020」を入れて今回は12回目、最後のピースフェアとなりました。

「戦争の記憶」の風化が進み、一方で「戦争」が近づいてくるような気配が漂い始めたころ、「記憶」を掘り起こし、戦争を知らない世代の皆さんにその悲惨な実態を知らせようと取り組んでいた「千葉市空襲と戦争を語る会」と「ちば・戦争体験を伝える会」のメンバーが出会いました。千葉市を拠点に、千葉市空襲を始めとした「戦争体験談」を集め、それぞれ『100人の証言』と『伝えたいこと』という2冊の本にまとめようとしていた時でした。

その後、一緒に何かイベントをと話が進み、2011年に千葉市文化センター9階会議室で開いたのが「7.7 千葉市空襲 66周年 戦争を繰り返さないための集い」でした。2012年、2013年と、きぼーる 11階保健福祉センター大会議室等をお借りして、集いに「戦争展」も加え、あまりの来場者の少なさに、1階アトリウムでの開催を模索し、「ピースフェア 2014」となりました。

戦争の悲惨な実態を伝えるだけでなく、平和のすばらしさ・ありがたさを実感し、平和な社会を創り続けていくためには何が必要か、一緒に考える場にしようと、ステージでは歌やダンス・バンド演奏・手品・朗読・紙芝居と、地域で顔なじみの皆さまにお声掛けし、子ども・女性・教育・環境・フェアトレード・・・と日頃様々な問題に取りくんでいる皆さまにも呼びかけ、幅広いたくさんの皆さまにご参加・ご協力をいただいた「ピースフェア」となりました。

私たちが住む千葉市でも 80年ほど前に空襲の被害があり、中心部の商店街や住宅地、周辺の軍関係施設に爆弾・焼夷弾が落とされて焼け野原となり、900名もの人々が犠牲となったという「千葉市空襲」の体験者からまずお話を伺い、資料を集め、展示を行い、ステージで体験を語っていただきました。その犠牲者について公的な実態調査が行われていないことを知り、毎回犠牲者のお名前の情報提供を呼びかけ、名簿をまとめ、実行委員会を立ち上げて寄付を募り、2015年に千葉市亥鼻公園に千葉市空襲犠牲者のお名前を刻んだ「平和祈念碑」が建立できました。

千葉にお住まいの方々の戦争体験は幅広く、戦争中の日常生活や学校生活、全国各地での空襲体験や疎開体験、戦地での体験や引き揚げ体験など、回を重ねるうちに、「被害体験」だけではなく「加害体験」にも自然に向き合うことになりました。「空襲」や「原爆投下」はいきなり引き起こされたのではなく、そこに至る長いこの国の「戦争」の歴史がありました。朝鮮半島・中国大陸・東アジアの国々とこの国とのこれまでの歴史に向き合うことが、これから平和な社会・平和な世界を創っていくには、ぜひとも必要です。そして、戦後、27年間もアメリカの統治下に置かれ、復帰後も米軍基地が広く占拠し、近年、自衛隊基地が次々と造設され、ミサイル防衛の最前線基地とされている沖縄・南西諸島の現状にもしっかりと向き合わなくてははいけません。

おびただしい犠牲者を出した世界大戦の後、国際連合が設立され、世界人権宣言が発せられて、さまざまな「人権規約」が国際間で結ばれてきましたが、未だに人々は殺し合いを続けています。

この国でも、国民主権・基本的人権の尊重・戦争放棄を掲げる「日本国憲法」の下にありながら、集団的自衛権の行使、敵基地攻撃能力の保有、「安全保障総合展示会」で武器取引！？

今後とも「戦争」を二度と繰り返させないために何ができるか、皆さまと一緒に考え、取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございました。ちば・戦争体験を伝える会 市川まり子